成田市 国際交流情報誌
NEWSLETTER
6, 2019
No. 240
成田市国際交流協会
Narita International Friendship Society
NIFS

令和元年度 成田市国際交流協会

総会・国際交流講演会開催

令和元年度成田市国際交流協会総会・講演会が、5 月 18 日（土）に中央公民館講堂で開催されました。

今年は役員改選の年にあたり、理事長には品田等氏が再任され、併せて理事 26 名、監事 2 名が下記のとおり選任されました。

そのほか総会では以下の議題が審議され承認されました。

①平成 30 年度　成田市国際交流協会　事業報告について
②平成 30 年度　成田市国際交流協会　収支決算について
③令和元年度　成田市国際交流協会　事業計画(案)について
④令和元年度　成田市国際交流協会　収支予算(案)について
⑤令和元年度　成田市国際交流協会　協会役員の選任について

令和３年度の総会までの任期で次の方々が役員に就任されました。（順不同・敬称略・○新任）

理 事 長	品田　等
副理事長	石渡　孝春、大竹　博、関根　賢次
理　　事	小泉　英夫、小川　喜章、○成田　温、○村岡　竜司、○小山　美奈子、大槻　安明 木皿木　元、栗原　廣行、村島　義則、今来　弓子、村島　弘和、神山　金男、清水　活次 岡田　博子、○浅野　正博、○小幡　晋彦、中澤　文武、吉岡　正之、増田　賢淑、宮内　豊俊 八華　歌州、岩澤　貞男
監　　事	○秋山　忍、○山本　秀和

国際交流講演会　「アイルランドの文化」

講師：ドネリ・ユーケリア（湘南工科大学講師）

総会の後、講師にアイルランド出身で湘南工科大学講師のドネリ・ユーケリアさんをお招きし、国際交流講演会「アイルランドの文化」が開催されました。100 名を超える方々にご来場いただき、ご自身の紹介、アイルランドと日本文化の相似点、アイルランドの食文化や音楽等について、分かりやすく、ユーモラスにお話しいただきました。

また、成田市がアイルランドパラリンピックチームと事前キャンプ協定を締結したことから、アイルランドの人気スポーツや活躍している選手の紹介スライドやビデオが上映され、選手を応援する時の正しい表現（ファイト！ではなく「ゴー！チーム・アイルランド！」）もご教授いただきました。

この講演で、聴衆の方々のアイルランドに対する理解、興味が深まったことと思います。

«講演でご紹介いただいたアイルランド特有の言語であるゲール語を一部ご紹介します»

・Fàilte フォイルチャ（ようこそ！）　・Slán スローン（さようなら）　・Sláinte スローインチャ（乾杯）

特集　成田市国際交流協会団体会員の活動紹介

協会には、現在 34 の団体が団体会員として登録しています。各団体はどんな国際交流活動を行っているのでしょうか？第 1 回目は、成田の誇る古刹、大慈恩寺をご紹介します。

第１回　大慈恩寺

【副住職宮内豊俊さん】

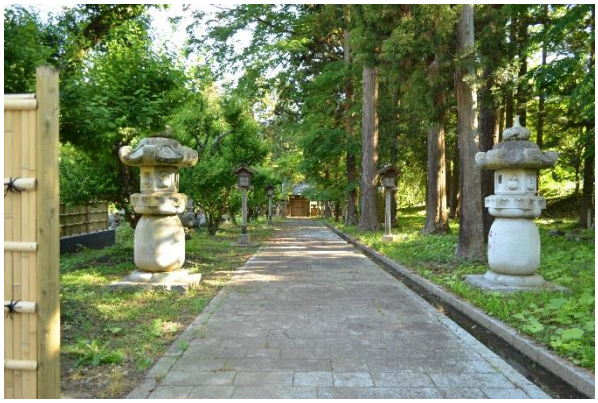
大慈恩寺の副住職であられる宮内豊俊さんは、成田市の国際交流に多大なる貢献をされています。中でも、毎年 7 月のサンブルーノ市中学生訪問団の来成時には、写仏、座禅体験、日本の伝統工芸製作、もちつき、スイカ割りなど、日本の伝統文化をより良く知ってもらうためのプログラムを提供してくださっています。また、その他にも協会の後援事業である「NARITA 少年の翼」の研修をはじめ、海外から数多くのゲストを迎え入れ、宿泊を含め、寺院ならではのユニークな体験でおもてなしにご尽力されています。

【宮内副住職より一言】

「成田市を訪れる方々に日本の寺院に立ち寄り、日本文化に触れ、体験してほしいと思います。これまで多くの外国の方が当寺院を訪れましたが、中でも「帰りたくない」と言って泣いていたサンブルーノ市訪問団中学生や、ザリガニを食べたがったイギリスの子などが印象に残っています」。

サンブルーノ市訪問団中学生との交流

新たに七福神が建立された庭園



寺正面より後方を望む

【大慈恩寺の歴史】

大慈恩寺は、761 年、唐から帰化した僧・鑑真の開基と伝えられています。境内とその周辺には、千葉県指定有形文化財の梵鐘（ぼんしょう）、成田市指定有形文化財の利生塔礎石群（りしょうとうそせきぐん）、板碑群（いたびぐん）など貴重な文化財が残されています。また、「大慈恩寺宝物類」として指定されている絵画・工芸品はじめ多くの中世文書も所有しています。

寺院の周囲は県指定の自然公園として整備されており、樹齢 1000 年以上を誇る楓の他、モミの大木などの古木がそびえたっています。また、最近リニューアルされた庭園には、七福神像が安置され、華麗な蓮の花が浮かぶ池のほとりでは、夏期にはホタルの飛来を目にすることができます。

【参考サイト】

千葉県ホームページ

千葉県公式観光情報サイトーまるごと e!ちばー

千葉の情報ページ　info ちば

【取材協力】大慈恩寺(成田市吉岡)

No.144

The Joys and Challenges of Raising a Fillipino Family in Japan

Karen Pamplona-Lopez

Sixteen years ago, a young bride so full of hope and excitement came to Japan to be with her groom. She ignored her fears of leaving her family and all things familiar and comfortable behind in her home country. She was eager to start a family in a land so foreign to her she is gripped with both excitement and fear.

I am that bride, although not so young anymore but still living with excitement in the land still so foreign to me that foreign became the familiar norm in my life. My name is Karen Pamplona-Lopez, a Filipina married to a Filipino and raising two boys here in the Land of the Rising Sun.

Needless to say, language is the biggest challenge for me. Perhaps one of my greatest blessings is having the opportunity to work as an ALT in one of the elementary schools in Narita. Knowing how the school system works makes me look and feel less ignorant at least in my eyes and in my children's eyes. Getting by for myself is one thing, but understanding so many things in my children's daily life is a whole different level. Luckily for me, my husband knows enough Japanese that he is in charge of all the documents at home.

Japan has one of the best public school systems in the world. In Narita, they even provide translator in school for foreign students and parents who cannot speak and read Japanese. There is a system in place that works and everyone is expected to do their share. We are expected to be involved for at least one year out of our children's entire years of stay in school. They are very considerate to people like me who have limited Japanese skills. But I still try my best to do the simple tasks given to me.

And then there's the extra-curricular activities! Sports is a big part of children's life here, be it in school or outside of school. My boys are very active in sports. Mothers are active participants too. There is a toban (mom-in-charge) assigned for the day who will watch the kids, prepare the drinks or just be present for anything that arises. We also have to drive the kids to a venue for competition from time to time. E-mails are constant and for this google translate is my best friend! Knowing limited Japanese is not an excuse to limit my family's activities. I learned not to be afraid to ask questions and to not mind that I sometimes look foolish for asking them. I learned to be resourceful. Most importantly, I learned that there is always someone willing to help. I just have to ask and show that I am willing to do my part. And in making the effort, I gained new friends and learned a lot.

Japanese culture is so different. A few times we find ourselves explaining to our kids why some of the things we do are different from what they see with their friends. It's hard when we tell them some things and they see another. We have to sit down, explain and teach them that one is not right over the other. It's just different and they have to respect the difference.

Like all things in life, everything has its pros and cons. As parents who grew up in a different culture, it is up to us to navigate our way in raising our children so they can have the best of both worlds. As they grow and try new things, we grow with them and challenge ourselves anew. So in a way, everything is still brand new and exciting for us. Certainly, raising a family anywhere is a challenge. The extra challenge of raising one in a foreign country is daunting so it's important to have a positive attitude and surround yourself with friends. We must cultivate support group who can make the journey more fun if not easier. In raising our kids here in Japan, we are raising ourselves too.

お詫び：同投稿記事は先月と同じものですが、最後の部分が切れて掲載されてしまいましたので全文再掲載いたします。

投稿記事募集中！ニューズレターの記事を書いてみませんか？皆さんの国際交流体験、海外経験などお聞かせください。

The NIFS is seeking writers for our newsletter. Please share your stories of Japan or overseas.

お知らせ広場

新規会員親睦会を開催します

新規会員の皆さんに、協会の活動をより良く知っていただくために、新規会員親睦会を開催します。３つの部会や交流のある各国の友好都市の紹介、どんなことをしているのかなどの質問にもお答えします。

協会をもっと知りたい方、ぜひ参加してみませんか。

対 象：平成 28 年 4 月 1 日以降加入の会員の方
日 時：6 月 22 日(土) 14:00～16:00
会 場：ぱん茶屋(上町 551)
申込み・問合せ：協会事務局（TEL 23-3231）
申込み締切：6 月 14 日(金)
最少催行人数：５名

語学ボランティア　募集

今年も姉妹都市米国サンブルーノ市から中学生友好訪問団が来成します。近郊視察時のお手伝い（語学ボランティア）をしてくださる方を募集します。

ご協力いただける方は事務局までご連絡ください。

定　員：各日若干名 ※会員限定
締　切：6月14日(金)
申込み：協会事務局（TEL23-3231）

募集する語学ボランティアのスケジュール

7月4日（木）	市内見学（日中）
7月5日（金）	成田山・祇園祭（日中）
7月8日（月）	市内見学（日中）

日本語教育補助員ボランティアを探しています！

成田市内の小・中学校で、外国人子女のため、日本語の習得や学校生活への適応を支援してくれる日本語教育補助員を探しています。

有償ボランティアとなります。ご協力いただける方は、下記教育委員会教育指導課までご連絡ください。

問合せ： 成田市教育委員会 教育指導課（TEL 20-1582）

派遣日数：週１日程度
派遣時間：原則として 8:30～11:30
時給：１時間 1,220 円
募集言語：タイ語、モンゴル語、ネパール語、ウルドゥ語、アラビア語、タガログ語

国際交流カレンダー(６月)

2 日(日) 世界の料理を楽しむ会(中央公民館/10：00)
4 日(火) 広報部会・編集会議(市役所/16:30)*
9 日(日) 英会話サロン(ぱん茶屋/13:00)
18 日(火) 広報部会・最終校正(市役所/16:30)*
22 日(土) 新規会員親睦会(ぱん茶屋/14:00)
＊印のついているものは、どなたでも参加できます

★お知らせ 7 月 24 日(水)より新イベント「初級英会話講座」が始まります。詳細は同封チラシをご覧ください。

編集後記

令和元年、2020 年のオリンピック、キャッシュレス化、以前から議論されているペーパーレスも含め、沢山の話題で盛り上がっています。さて、世界で最も注目されているのが、 ビーチクリーンアップです。ご存知でしょうか？ 海に面していない内陸の町のごみが、川を通じて海へ、日本から出たごみは、太平洋を経て、北西ハワイ、アメリカ西海岸などへ運ばれます。海の生き物の中には、ごみが体の一部にひっかかってしまうものがいます。そのごみの多くがプラスチックです。「沢山のごみを拾えばいい」 という意見もあるかもしれませんが、「ごみを生まない(出さない、作らない)」ことが優先、重要だと思います。海を守ることは私たち自身を守ることでもあります。美しい海をつくっていくのは我々の使命です。一人一人の意識によって…自然を守りましょう。 Athena M

ニューズレター（毎月１日発行）
[編集・発行]成田市国際交流協会広報部会(〒286－8585 成田市花崎町 760 成田市役所文化国際課内)
Tel:0476-23-3231／Fax:0476-22－4494／E-mail: nifs@ngy.3web.ne.jp
成田　国際交流　検索
再生紙を使用しています
NIFS